



STOP! 介護崩壊 介護ウェーブ2010 推進ニュース

—介護ウェーブの“Big Wave”をおこそう！—

方針「今後の介護ウェーブの取り組みについて」を具体化し介護改善要求の声を国会に届けよう！

各法人で11月11日「介護の日」宣伝・署名行動、学習会！

女子学生グループは「家族全員に署名をしてもらう」と署名用紙を持ち帰る（福岡）



健和会では、昨年はそれぞれの事業所での宣伝行動でしたが、今年はすべての事業所が小倉駅前に結集し宣伝行動を行いました。各事業所からプラカードや手書きのTシャツの持参し工夫した宣伝行動となりました。宣伝用にハート型の風船を配り、子ども連れの若いお母さんも署名をしてくださいました。リレートークでは、介護職員が中心となって原稿を作成し、介護保険制度の抜本的改善の必要性を訴えました。介護福祉を目指している女子学生グループは「家族全員に署名をしてもらう」と署名用紙を持って帰られました。

福岡医療団、ちどり福祉会、福岡地域福祉サービス協会、県連は、博多駅前で12時30分から1時間の宣伝行動を行いました。ちどり福祉会の介護職員は財政活動で作成した「介護改善Tシャツ」を着て元気よくハンドマイクを握りました。福岡地域福祉サービス協会からの参



加者はお揃いのヤッケと自作の帽子で介護改善を訴えました。くるめ医療生協は、介護改善署名の他に「後期高齢者医療制度廃止」と「久留米市国保料引き下げ」の署名にも取り組みそれぞれ45筆と65筆の成果があがりました。親仁会は、介護の日で宣伝行動は残念ながら中止延期となりましたが、前日に鹿児島大学の伊藤周平先生を講師に学習会を開催しました。



「介護改善をめざすつどい」(11月13日)を開催し、111名が参加

福岡県民医連主催「介護改善をめざすつどい」を11月13日に開催し、111名が参加しました。民医連以外の事業所・市民からも17名の参加がありました。企画は、5月に実施した介護サービス利用者調査結果報告のあと、林泰則事務局次長（全日本民医連）の学習講演「介護保険2012年改定に向けた動きと制度改善の課題」、指定報告を行い、2012年医療・介護報酬の同時改定、地域包括ケア構想に向けた動きが始まっている中、介護改善に向けての今後の取り組みの意思統一がはからされました

調査結果から「生存権が保障される社会保障（介護保険）制度の確立」必要性を指摘

今年5～7月に65歳以上の共同組織、患者・介護サービス利用者444名を対象に行った調査結果では、「必要だが介護認定の申請をしていない」方が55%、毎月の収入が4割近くが10万円未満、また、わずかな「収入」の中から、民間保険に加入している方が約4割近くに上り、保険料は平均額約13,000万円、外出頻度も3割強が「ほとんど外出しない」という実態が明らかになりました。柳原憲文氏（福岡民医連事務局）は、調査結果から、①高齢者は「孤独な環境」におかれている、②生活困難の広がりと医療介護の抑制が進行、③低所得者も民間保険に加入という厳しい環境の中で生活していると問題点を指摘し、「生存権が保障される社会保障（介護保険）制度の確立」の必要性を指摘しました。

利用者にとって「利用できない介護保険」、国にとって「利用させない介護保険」



林泰則事務局次長（全日本民医連）は学習講演で、「介護保険10年」は「欠陥の増幅」が深刻化し、利用者にとって「利用できない介護保険」、国にとって「利用させない介護保険」であると問題点を指摘しました。また、現在行われている介護保険法改定の審議は、「財政事情優先で負担増・給付抑制が先行している」と批判し、「地域包括ケア構想」を前面に打ち出している、民主党政権の介護保険制度「改革」は、財界の「提言」が根底にあること、医療・介護・福祉の市場化・営利化を目的にしている点を示しました。

その上で、①「地域包括ケア」は「介護保険10年」の検証が欠落、②基本理念は「自己責任」、③ケア体制を「安あがり」「効率的」を目的にしているという問題点を示し、「地域包括ケア構想」の動きは既に始まっており、「権利としての社会保障」の実現のための今後の介護ウェーブの取り組みの重要性を明らかにしました。

今回の「つどい」の準備では、約500の民医連外の介護事業所に案内と署名用紙等を発送し、反応もよく連日県連に返信がされてきています。今後の運動強化のために、引き続き署名・宣伝行動の強化の他、民医連外の介護事業所や議員、何よりも民医連の全職員や共同組織構成員を巻き込んだ「介護ウェーブ」にしていく必要があります。（2010年11月22日 福岡県民医連 田口事務局次長より）

山形市内の繁華街である七日町で街頭アピール行動を実施！ 天気にも恵まれ、通行中、買い物中の大勢のかたに声をかけました（山形）



11月11日「介護の日」にあたり、山形県民医連では、松柏会、やまがた保健生協の介護職員を中心となり、山形市内の繁華街である七日町で正午より街頭アピール行動を行いました。福祉保育労2名の参加もいただいての19名で、マイク宣伝、パンフレット配布、署名活動に取り組みました。天気にも恵まれ、通行中、買い物中の大勢のかたに声をかけました。スタートして10年を迎える介護保険制度の、抜本的な改善を訴えながら署名へ

の協力をお願いし、若者を含む幅広い年代のかたに署名いただき、200筆に到達しました。この日は民放T V局2局、日刊紙2紙の取材がありました。取材を通じて現在の介護問題のみならず、署名による請願を国会に提出しての介護の社会化に向けた働きかけについても、T Vニュースおよび新聞紙面で紹介いただきました。山形民医連ではこれから11月14日（日）に酒田市内にて、「介護保険10年これから介護を考える」をテーマに「2010年介護フォーラム」を開催します。介護ウェーブ運動をさらに推し進め、秋のたたかいを成功させましょう。（山形県民医連介護・福祉NEWS 2010年11月11日より）

お問い合わせは、「介護ウェーブ推進本部」事務局：山平・名波まで

TEL 03-5842-6451 / FAX 03-5842-6460 / E-mail min-kaigo@min-iren.gr.jp